

ナミビア

主要データ

国名〔英名〕	ナミビア共和国〔Republic of Namibia〕
面積 (km ²)	824, 292
海岸線延長 (km)	1, 572
人口 (百万人)	2. 6
人口密度 (人/km ²)	3. 2
GDP (bUS\$)	13. 24
一人当り GDP (US\$)	5, 034. 08
主要鉱産物：鉱石	銅、鉛、亜鉛、マンガン、ウラン
主要鉱産物：地金	銅、亜鉛
鉱業管轄官庁	鉱山エネルギー省 (Ministry of Mines and Energy)
鉱業関連政府機関	地質調査所 (Geological Survey of Namibia)
鉱業法	鉱物資源法 (Minerals Act 33 of 1992)
ロイヤルティ	市場価格により鉱山エネルギー省が決定。現時点では金、銅、亜鉛、その他のベースメタル、ウランは3%
外資法	外国投資法 (Foreign Investment Act, No.27 of 1990) 投資促進法 (Namibia Investment Promotion Act, 2016)
環境規制法 (環境影響調査制度、環境・排出基準の有無等)	Environmental Management Act7 of 2007
鉱業公社	Epangelo Mining Ltd. (2009.12 設立)
鉱業活動中の民間企業	Vedanta 社 Trevali Mining 社、China National Nuclear Corp. (CNNC)、CGN、CNUC など

1. 鉱業一般概況

(1) 鉱業概況

鉱業の GDP に占める割合は 9.3%、外貨収入の 51%を占め、鉱業はナミビアにおける主力産業である。2020 年はダイヤモンドの大幅減産の影響で、実質成長率は前年比 11.1%減のマイナス成長であった。

主要生産物のダイヤモンド、ウラン以外にも亜鉛、銅、螢石、金、銀等の生産が見られる。鉱業部門への近年の直接投資額は年間 5bN\$程度¹ (約 300mUS\$) で推移。2014 年の 20bN\$ほどと比較すると、近年の直接投資の減少は顕著である。

(2) 生産動向

・ウラン：ナミビアのウラン生産量は世界第 4 位²である。現在生産中の鉱山として、Rossing 鉱山 (1967 年生産開始) と Husab 鉱山 (2017 年 12 月生産開始) がある。

Rossing 鉱山については、2018 年 11 月にオペレーター Rio Tinto のシェア 69%を中国国営ウラン公社 (CNUC) に売却することで合意がなされ、2019 年 7 月には売却が完了している。

Husab 鉱山は、中国 CGN の子会社 Taurus Mineral 社が操業し、生産量を伸ばしている。2019 年生産量は、前年比 12%増の 4,010tU₃O₈であった。

¹ 2019 Annual Review, Chamber of Mines of Namibia

² <https://www.world-nuclear.org/information-library/facts-and-figures/uranium-production-figures.aspx>

ウラン価格の低迷の影響で、2018年に操業休止に入った Langer Heinrich 鉱山（2007年生産開始）については、所有する豪 Paladin 社が操業再開のための PFS を行い、ウラン価格の回復に伴う再開のタイミングを伺っている。

・ **亜鉛**：インド系グループの Vedanta 社が 100%シェアを持つ Skorpion 亜鉛鉱山は、山元で亜鉛地金を生産してきたが、既に鉱量の関係からマインライフは限られている。2017年4月に着手したマインライフ延長事業では、2020年5月までの採掘の予定であったが、その後のオープンピットの崩壊に伴う操業の停止や遅れから事業の進捗は遅れている。2019年生産量は 67,295tZn であり、前年比 2%の微増であった。

加 Trevali 社が操業する Rosh Pinah 亜鉛鉱山は、亜鉛精鉱を約 100 千 t /年生産しており、現在の処理能力 0.7 百万 t/年を 1.3 百万 t/年にする拡張計画を検討している。

・ **銅**：Tshudi 銅鉱山にて 15 千 t/年程度の銅カソードを生産。

Tsumeb 製錬所は 1963 年より操業する銅製錬所であり、近年は海外より銅精鉱を輸入してブリストア銅、硫酸を生産する。2019 年は 46 千 t（前年比 6%減）の生産であった。

・ **錫**：2019 年 8 月には、英 AfriTin 社が所有する Uis 錫鉱床（Erongo 地方）から錫精鉱の生産を開始した。第 1 フェーズは 60t/月の錫精鉱生産になる。過去に生産実績を持つワールドクラスの鉱床を再開しているプロジェクトである。2019 年より、豪 AfriTin 社の Uis 錫鉱山からの錫精鉱の輸出が始まった。

2. 鉱業政策の主な動き

(1) 経済エンパワーメント政策の動向

NEEEF (New Equitable Economic Empowerment Framework) は、歴史的不利益を被ったナミビア黒人 (Historically-Disadvantaged Black Namibians; HDNs) による事業参加を促進するために導入された政策である。2015 年に Amadhila 首相が、NEEEF 法案 (NEEEB) を国会に提出したが、HDNs の所有権率 25%の義務化の条項などが大きな争点となった。その後、大統領による主導のもと再検討が行われていたが、2020 年 2 月に修正案³が国会に提出されている⁴。同修正案において、HDNs 所有権 25%の義務化は削除されているが、以下のような項目 (Pillars) について指標を設定し、HDNs の進出度合いを測定するとしている。基準や判定等の詳細については、別途に政府が策定するとしており、本法案が可決されれば、政府による裁量が強まり、投資環境の不透明性が増すと危惧されている。

- (a) 所有権：企業やアセットにおけるナミビア黒人による所有権の割合など
- (b) 経営管理と雇用の公平性：会社の議決権の割合、経営陣や管理職の割合など
- (c) 人材育成・能力開発：技術開発への支出、技術・学術・職業学習への支援、インターンシップへの参加など
- (d) 起業家育成：起業における、コストの一部負担、専門知識の提供、指導など
- (e) 資機材調達：ナミビア商品、サービスへの支出など
- (f) 企業の社会的責任：社会福祉への貢献が企業純利益に占める割合など
- (g) 付加価値・技術革新：原材料の現地での加工、雇用創出、技術革新プログラムの支援など
- (h) エンパワーメント・ファイナンス：ナミビア企業への投資、融資、保証など

(2) 高付加価値化政策の動き

2019 年に、政府-産業界の共同付加価値委員会 (Joint value addition committee; JVAC) が策定し

³ <https://ee33q2oup2x3u2aqo3k6shgq-wpengine.netdna-ssl.com/wp-content/uploads/2020/03/18-Link-NEEEB-Final-Draft.pdf>

⁴ P.13, 2019 Annual Review, Chamber of Mines of Namibia

ていた鉱物高付加価値化戦略（Minerals Beneficiation Strategy）が鉱山エネルギー省に提出され、今後の施策への反映が検討されている。

（3）鉱業関連税制の動き

2018年にIncome Tax法の改正案が出され、その中でダイヤモンド以外の鉱業について、鉱業ロイヤルティ及び輸出税の所得控除が認められない旨が含まれていた。業界からの強い反発を受け、その後財務省による調査及び業界との協議が行われることになり、施行が保留されている。2020年5月に行われた2020及び2021年度予算演説において、財務大臣からは新規の税制を導入する時期ではないとする発言もあった。

（2020.11.30 ヨハネスブルグ事務所 原田 武）